

報道機関 各位

「Roger Moore Project」

～ダイアベティス（糖尿病）があっても、子ども達が夢を描ける社会へ～

JADEC が新しい小児 ^{ダイアベティス} 糖尿病 対策事業を始動

2025 年 11 月 14 日

JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会 理事長：清野裕／関西電力病院総長 所在地：東京都千代田区）は、小児期発症の ^{ダイアベティス} 糖尿病 の子どもたちとその家族を支援し、彼らを取り巻く環境の包括的な改善を目指す新プロジェクト『Roger Moore Project』を発足させました。本プロジェクトは、病気とともに生きる子どもたちが自信を持って未来を描ける社会の実現を目指し、教育・医療・地域をつなぐ多角的な支援を展開していきます。

■小児糖尿病の課題とプロジェクトの背景

小児期に ^{ダイアベティス} 糖尿病 と診断された子どもたちは、日々の血糖管理や医療との関わりの中で、身体的・精神的な負担を抱えながら生活しています。特に診断直後は、本人も保護者も大きな不安や孤立を抱えやすく、適切な情報や支援につながるまでに時間がかかる子どもたちも少なくありません。また、学校現場では ^{ダイアベティス} 糖尿病 に対する理解が十分でないこともあり、子どもたちが安心して学校生活を送るための環境整備が求められています。

こうした課題に対し、2025 年 4 月、日本の製薬企業経営の実績をお持ちの Roger Moore（ロジャー・モア）氏より、JADEC に対し、「日本の糖尿病の子どもたちの未来のために、継続的な支援をしたい」との申し出がありました。モア氏のご厚意を受け、JADEC はプロジェクトチームを設置し、World Diabetes Day の本日、『Roger Moore Project』の始動を正式に宣言しました。

■活動の3つの柱

『Roger Moore Project』の初年度は、まず 1 型 ^{ダイアベティス} 糖尿病 とともに生きる子どもたちとその家族にフォーカスします。

1 型糖尿病と診断された直後、子どもと保護者は強い不安と混乱の中に置かれます。JADEC は、小児糖尿病キャンプなど、長年に亘る小児 ^{ダイアベティス} 糖尿病 対策事業の知見から、「最初の一步をどう支えるか」がその後の治療意欲や自己肯定感に大きく影響すると考えました。JADEC ならではの支援として、以下の3つを柱に事業展開します。

1. 発症初期の子どもへの支援：安心と希望を育む場づくり

- ・発症初期の不安に寄り添う交流会（医療者・同病者との対話、ワークショップなど）
- ・年齢に応じた情報提供ツール「わたしのからだとダイアベティス」（仮）シリーズの制作

2. 発症初期の子どもをもつ保護者への支援：共感と情報の橋渡し

- ・保護者同士が語り合える交流会（医療者による講習、家族同士のつながり作りなど）
- ・発達段階別情報提供ツール「わたしたちの子とダイアベティスと」（仮）シリーズの制作

3. 学校環境への働きかけ：すべての^{ダイアベティス}糖尿病の子どもに安心を

- ・出張^{ダイアベティス}糖尿病教室、教職員向け補助教材の制作等を通じた教育現場への支援
- ・学校教育関連組織との連携による包括的支援体制の構築

■プロジェクトの社会的意義

『Roger Moore Project』は、既存の医療支援や情報提供を補完しながら、発症直後という最も支援が届きにくい時期に焦点を当てた新しいアプローチを提示します。本プロジェクトの新規性と社会的意義は、以下の点にあります。

- ・感情・情報・制度を同時に支える立体的支援
- ・子どもと保護者の「自信」「自己肯定感」「自己効力感」や「安心感」を育む設計
- ・医療・教育・地域が連携する三位一体型モデル
- ・他の慢性疾患にも応用可能な全国展開型の支援の枠組み

そして、このプロジェクトは、^{ダイアベティス}糖尿病のある子どもたちの支援にとどまらず、JADECのアドボカシー活動と連携し、「病気があっても夢を描ける社会」という価値観を広げるムーブメントとして、社会全体に波紋を広げていきます。

■Roger Moore氏のコメント

私は日本に40年以上住み、うち30年間ノボルディスク社で働いていました。そこでダイアベティスコミュニティに関わり、優秀で献身的な人々と出会う機会に恵まれました。

退職後オーストラリアに戻りましたが、最近、私の家族と共に、日本のダイアベティスの子どもたちとその家族を支援したいと考え、JADECの清野理事長に相談しました。

その結果、ロジャー・モア・ファミリー・トラストが今後10年間、日本の小児ダイアベティスケア支援プロジェクトを財政的に支援することになりました。

本プロジェクトによる医療・教育・地域の愛情ある支援を通じて、ダイアベティスのあるすべての子どもが夢を追い、笑顔で未来を描ける社会の実現を願っています。



Roger Moore 氏

■清野裕理事長のコメント

「^{ダイアベティス}糖尿病 と診断された子どもたちが、病気によって夢を諦めることなく、自分らしく生きていける社会をつくりたい——それが、私たち JADEC の願いです。『Roger Moore Project』は、発症直後という最も不安な時期にこそ、子どもと保護者に寄り添い、安心と希望を届ける取り組みです。このプロジェクトを通じて、医療・教育・地域が連携し、病気のある子どもたちが孤立せずに成長できる環境を広げていきます。Moore 氏の思いを形にし、社会全体で“病気があっても夢を描ける”という価値観を育てていきたいと考えています。」

■今後の展開

2026 年度には、1 型 ^{ダイアベティス}糖尿病 発症初期の子どもと保護者を対象とした交流会を全国で 3～5 回程度開催予定です。また、子ども向け・保護者向けの情報提供冊子シリーズは、2026 年 6 月末までの制作・公開を目指して進行中です。医療機関や教育現場との連携を通じて、これらのツールが広く活用されることを目指します。

本プロジェクトは数年間にわたって継続的に実施され、今後も小児 2 型 ^{ダイアベティス}糖尿病 対策も含む新たな支援プログラムを随時展開していく予定です。

■JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会）について

JADEC は、^{ダイアベティス}糖尿病 に関する正しい知識の普及啓発とアドボカシーを目的に、1961 年に結成されました。現在の会員数は、約 105,000 人。^{ダイアベティス}糖尿病 のある方とその家族、医師、歯科医師、看護師・管理栄養士・薬剤師などのメディカルスタッフおよび ^{ダイアベティス}糖尿病 に関心のある企業・市民で構成されています。47 都道府県糖尿病協会の下に約 1,600 の「友の会」を置き、地域社会への啓発活動を通じて、日本の ^{ダイアベティス}糖尿病 の抑制を目指しています。1987 年に社団法人、2013 年 4 月からは公益社団法人となり、^{ダイアベティス}糖尿病 の新しい呼称の普及を目指して、2024 年からは団体名表記に英語表記の JADEC を併用しています。

◇本件に関するお問い合わせ◇

JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会） 担当：堀田

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 email : hotta@nittokyo.or.jp

www.nittokyo.or.jp / facebook.com/nittokyo